



編集長便り

# 2020年 大学入試はどう変わる? ③

## 小学生からの学習の積み上げが 大学入試に生きる

大学入試改革については、今後も文部科学省で検討され、具体化が進められます。「高大接続改革の実施方針」では明らかにされていないことも多いので、引き続き注目が重要です。

また、2016年度の一般入試で東京大学が推薦入試、京都大学が特色入試を取り入れたように、個々の大学では新テストの導入を待たずに改革が始まっています。2021年1月(予定)に大学入試を迎える現中3生はもちろん、それ以上の学年の生徒も志望校の動向には注意したいものです。さらに、本格実施となる新テストを受ける現小5生も、まだまだ先のことと油断はできません。

「思考力・判断力・表現力」の土台となる「知識・技能」は、早くから積み上げていくことが大切です。また「思考力・判断力・表現力」を伸ばすためには、学んだ知識を活用する指導も必要です。さらに、将来を見据えたキャリア教育も、塾の役割として求められるようになるかもしれません。入試制度が大きく変わりゆく中で、それぞれの年代が必要とするコースやメニューを用意し、早めの情報提供で保護者の信頼を勝ち取りましょう。

### 編集長こぼれ話

## 社会にかかわろうという意欲を大切に

大学の2次試験では子どもたちのさまざまな要素が評価されることとなります。そこで、早くから注目しておきたいのが活動歴。履歴や賞歴が残るものであれば評価対象になる可能性は高いですが、中でもボランティア活動の評価は高いでしょう。

東京大学の推薦入試合格者の中に、東日本大震災の時に高校でボランティア組織を立ち上げ、復興のために活躍した生徒がいるそうです。本人は東大に行くためにボランティア活動をしたわけではないし、推薦入試についても先生に勧められたか

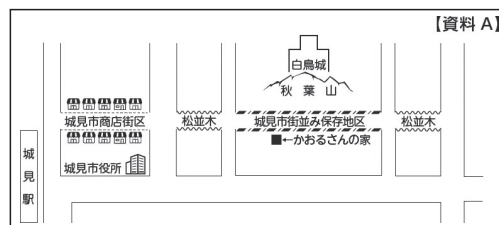
ら出願してみたといえます。もちろん、学力レベルも高かったのですが、そうした真面目で無欲な活動が認められるのは本当に素晴らしいことだと思います。

また、地域創生もキーワードの1つ。たとえば、町おこしにつながる新ビジネスを考えて地域の活性化に貢献する、などがあげられます。それには、地元のために役立ちたいという思いのほかに、アイデアをビジネスにつなげるための組織力、人間力も必要となります。これからは、さまざまなことで社会にかかわろうという志や意欲を持つことが大切です。そういった子どもたちのチャレンジを、ぜひサポートしてあげてください。

(教材編集長 上野伸二)

## ■大学入学共通テスト・モデル問題

かおるさんの家は、【資料A】の「城見市街並み保存地区」に面している、伝統的な外観を保った建物である。城見市が作成した景観保護に関する【資料B】「城見市『街並み保存地区』景観保護ガイドラインのあらまし」と、かおるさんの父と姉の会話を読み、後の問い(問1~4)に答えよ。



### 【資料B】の概要

「ガイドラインの基本的な考え方」「景観保護の目標」「景観保護の方針」についてまとめられている。

### 【かおるさんの父と姉の会話】の概要

「城見市『街並み保存地区』景観保護ガイドライン」について、父は「自己負担が大きすぎる」などとして反対。姉は「街を守っていくのは自分たち自身なんだという意識も必要」などとして、ガイドラインに賛成している。

(問1~3 省略)

問4 父と姉の会話を聞いて、改めてガイドラインを読んだかおるさんは、姉に賛成する立場で姉の意見を補うことにした。かおるさんはどのような意見を述べたと考えられるか、次の条件に従って述べよ。(条件は4つ。字数は80字以上120字以内。)

〈まるわかりブックvol.26「激変 公立高校入試 こんな「記述問題」見たことない!」P.16より〉

## 編集長の視点

### ●勉強以外の活動も積極的に

大学入試では多様な要素で生徒が評価されるため、さまざまなことに積極的に臨みたい。学内なら生徒会や体育祭の実行委員、部活動での大会参加、学外ならボランティア活動や地域創生に結び付く活動なども。子どもの良いところ

を理解し伸ばすことが重要。また、大学が高校生向け理科実験教室を開催するなど、学びの機会提供に取り組んでいる。そうした情報にアンテナを張っておくことも大切。

▶ より詳しい内容は、9月に開催するセミナー「ついに決まった!大学入試改革」にて! 詳細はこちらをCHECK!

▶ 現在発表されている大学入試改革についてわかりやすくまとめた **まるわかりブック vol.27「どうなるの?うちの子の大学入試」**(仮)は9月発売予定!

# 大学入試改革 決まったこと、決まらなかったこと

	決定事項(2016年3月時点)	変更点と継続検討事項(2017年5月時点)
共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2020年度から実施(本格実施は2024年度以降)。</li> <li>● 記述式とマークシート式で、先行期間は国語と数学で記述式を採用。</li> <li>● 複数回実施はなくなり、実施は現行センター同様1月に。</li> <li>● 英語は、民間の資格検定試験も活用。「話す」「書く」も加えた4技能をバランスよく評価。</li> <li>● 2017年度に首都圏100カ所50,000人規模の「プレテスト」を実施予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 名称は「大学入学共通テスト」(仮)へ。</li> <li>● 出題する教科・科目は、国語や数学I、世界史A、物理など30科目で、2024年度の本格実施以降は絞る。</li> <li>● 国語、数学の記述問題は3問程度。国語は80～120字程度の記述。試験時間は国語100分、数学70分。</li> <li>● 従来マーク式問題は、より思考力を要するものへ変更。</li> <li>● 民間の4技能資格検定試験は、高3の4月～12月に2回まで受験可能。</li> <li>● 英語は、現行センターと同じ2技能試験を残す可能性も。</li> </ul>
基礎診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学の推薦・AO、個別試験や専門学校などの入学、就職などへの利用は本格実施となってから。</li> <li>● 対象となるのは、5教科のうちの必修科目(試行実施期間中は、国語、数学、英語の3教科)。</li> <li>● 2019年度から実施(本格実施は2023年度以降。それまでは試行実施期間)。</li> <li>● 2017年2月に、10道府県12校で「試行調査」を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 名称は「高校生のための学びの基礎診断」(仮)へ。</li> <li>● 英語のテストの方法(民間のノウハウをどう活かすか検討中)。</li> <li>● CBT・IRTの導入(導入の方向だが、時期は未定。当初は「紙のテスト」で実施される可能性も。その場合、各高校の任意の時期に実施できるかどうか不明)。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学個別試験でも、脱・知識量偏重。人物評価や入学後に取り組むことを評価。</li> <li>● AO・推薦入試は存続。ただし、学力が伴っていることが必須条件に。</li> <li>● 調査書は観点別評価に。学習外の取り組みの記述も拡充。</li> <li>● 推薦書にも、学習評価の記載が必須。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般入試⇒一般選抜(仮) AO入試⇒総合型選抜(仮) 推薦入試⇒学校推薦型選抜(仮)へと入試区分の名称を変更。</li> <li>● AO・推薦入試では、「学力を問う試験」を義務付ける。</li> <li>● 調査書に記載する学習以外の取り組みについての記載基準(記載する取り組みの例はいくつか示されたが、基準については明示されず)。</li> </ul>

# 大学入試改革スケジュール

文部科学省：高大接続システム改革会議の「最終報告」より

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
「高校生のための 学びの基礎診断」 (仮)	「実施方針」の 策定・公表  プレテスト (「試行調査」)の実施	「実施大綱」の 策定・公表	試行実施期間	試行実施期間				本格実施	本格実施
			実施	試行実施期間と本格実施期間の違い 教科・科目 利用 <試行実施>国語、数学、英語 <本格実施>大学入試、進学、就職などへの利用は、試行期間中はなし <本格実施>未定					
「大学入学 共通テスト」 (仮)	「実施方針」の 策定・公表  プレテストの実施(※)	「実施大綱」の 策定・公表  プレテストの実施(※)	先行実施期間	先行実施期間				本格実施	本格実施
			実施 (実施日程は 2021年1月を予定)	次期学習指導要領に 対応した「実施大綱」 の予告			次期学習指導要領に 対応した「実施大綱」 の策定・公表	実施 ※実施日程は未定	
各大学の 個別選抜改革	中教審答申の提言に基づき、 2016年度大学入学選抜実施要項から順次反映			新テストを活用し、より多元的に評価					
	個別の大学では、可能なものは随時導入される可能性があるため、中3以上の生徒も注意が必要								
その年度に高3となる生徒の、2017年度の学年				中3	中2	中1	小6	小5	

学習指導要領の改訂による、高校で学習する教科やカリキュラム、学習内容の変更は、2022年度の高1(2017年度の小5)から予定されているため、  
 ・「高校生のための学びの基礎診断」(仮)は、2019～2022年度は試行実施、2023年度の高2から本格実施  
 ・「大学入学共通テスト」(仮)は、2020～2023年度は先行実施、2024年度から本格実施となる。

※「大学入学共通テスト」(仮)のプレテストは複数回実施を予定。

現中3生が  
高2の時に「高校生のための学びの基礎診断」(仮)の  
高3の時に「大学入学共通テスト」(仮)の  
試行・先行実施がスタート

現小5生が  
高2の時に「高校生のための学びの基礎診断」(仮)の  
高3の時に「大学入学共通テスト」(仮)の  
本格実施がスタート